

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：34408

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00049

研究課題名(和文) わが国における歯科医療倫理学の構築のための総括的研究

研究課題名(英文) Overall Research on the Formulation of Dental Ethics in Japan

研究代表者

櫻 則章 (KATAGI, Noriaki)

大阪歯科大学・歯学部・教授

研究者番号：40194766

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本科研費による主要な成果は次のとおりである。1. プロフェッショナリズム教育の実践に関するワークショップの開催(2019年度) 2. これまでの科研費による研究成果物を用いた倫理・プロフェッショナリズム教育の実践例等に関するシンポジウムの開催(2020年度) 3. 治療のために抜去された歯の教育・研究利用に対する患者等からの同意取得に関する暫定的な提案(2021年度) 4. 倫理・プロフェッショナリズム教育の現状に関するシンポジウムの開催(2022年度) 5. 守秘義務に関する映像による歯科医療倫理学修教材の制作(2022年度) 6. 2022年度に制作した教材の活用に関する教育研究集会の開催(2023年度)

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、これまで進めてきた、わが国における歯科医療倫理学の構築のための研究を歯科衛生学分野も含めて総括したものであり、そうした研究自体が当該領域におけるわが国の初めての試みであるという意味できわめて特色のある研究である(学術的意義)。また、本研究の成果は今後の歯科医療に係る教育のみならず、わが国における歯科医療現場の倫理的質の向上に大いに寄与するものと期待される(社会的意義)。

研究成果の概要(英文)：The outcomes of the study by grant-in-aid for scientific research (KAKENHI) are the followings. 1. Holding of workshop on practice of dental professionalism education. 2. Holding of symposium on new method on ethics and professionalism education. 3. Tentative proposal on how to get consent from patients on educational or research use of teeth extracted for Treatment. 4. Holding of symposium on the current situation of ethics and professionalism education 5. Production of video material for dental ethics education on confidentiality. 6. Holding of educational research meeting on how to use the video material for dental ethics education.

研究分野：倫理学

キーワード：歯科医療倫理 歯科医療倫理教育 歯科医療プロフェッショナリズム 歯科医療プロフェッショナリズム教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本科研費による研究はこれまでの科研費による3つの研究を受け継ぎ総括するものである。平成22年度から平成24年度の科研費(わが国における歯科医療倫理学の構築のための基盤的研究、基盤研究(C)、課題番号:22520035)による研究では、それまでわが国でまったく手をつけられることのなかった歯科に特化した医療倫理学、すなわち歯科医療倫理学の基盤の構築を試みた。卒後研修における研修歯科医の問題行動を集めて整理し、卒後研修において問題行動を起こさないようにするために歯学部においてどのような教育が必要であるかを検討する一方で、歯学部における学生参加型(グループ討論型)の歯科医療倫理教育を可能にするために、歯科医学教育と歯科医療の現場で生じる倫理的問題の事例を集めた。それらの成果は最終的に「2013年度版 よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集」(以下、「2013年度版」という。)としてまとめることができた。

平成25年度から平成28年度までの科研費(わが国における歯科医療倫理学の構築のための発展的研究、基盤研究(C)、課題番号:25500011)による研究では、基盤的研究をさらに発展させるために歯科医学教育と歯科医療の現場で生じる倫理的問題をさらに広く集めて「2013年度版」の改訂版の作成を試みると同時に、倫理的検討事例から一例を選んで映像化し、DVDに収録した(タイトル「入れ歯はひとつ」<https://www.youtube.com/watch?v=opcs2GTA0ug>)。これは、医科では海外の翻訳版のほかにわが国で制作された医療の倫理的問題について討論するための視聴覚学修教材がすでに多数存在するが、歯科に関するものは皆無であったために、科研費を使用して制作したものである。

平成28年度から平成31年度までの科研費(わが国における歯科医療倫理学の構築のための総合的研究、基盤研究(C)、課題番号:16K02147)では、歯学部の学生だけでなく歯科衛生学を学ぶ学生・生徒も含めた広く歯科医療人育成課程における歯科医療倫理教育のための学修(学習)教材の作成・制作を目指して「2013年度版」の活用状況の調査を実施し、また歯科衛生学教育に従事する教員の協力を得て歯科衛生学教育及び歯科衛生業務の現場における倫理的問題を含めて、「2013年度版」の改訂版として「2018年度版」を作成し、これをもとにして『「よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナルリズム教育:プロフェッションワークブック」(以下、「プロフェッションワークブック」という。)(医歯薬出版、2019年)を出版した。さらに映像による歯科医療倫理学修教材第2弾として「落とし物はヒトの歯」(<https://www.youtube.com/watch?v=YB3a0CwipLg>)を制作した。(なお、この間、プロフェッショナルリズムとかプロフェッショナルリズム教育が医学系教育学会でさかんに取り上げられるようになった。そのため、以下では「倫理教育」という言葉だけでも、そのなかにプロフェッショナルリズム教育を含めることとするが、必要に応じて倫理・プロフェッショナルリズム教育という言葉も使用する。)

今回の科研費による研究は、これらの成果を教育現場にさらに広く普及させるために、歯科医療倫理教育の現状と課題を新たに把握するとともに改善のための方策を検討し総括すること、これまで計画しながらも成果を出せなかった治療のために抜去された歯の適切な教育・研究利用法の提言、及び映像による歯科医療倫理学修教材第3弾の制作を目指して実施された。

2. 研究の目的

すでに述べたように、本科研費による研究の目的はこれまでの科研費による研究成果を総括するために、歯科医療倫理教育の現状と課題をさらに把握するとともに改善のための方策を検討すること、治療のために抜去された歯(以下、「抜去歯」という)の教育・研究利用法の提案、及び歯科医療倫理教育にさらに資するために映像教材を制作することを主要な目的とし、それを通して歯科医療に従事する歯科医療人の倫理的質の向上に寄与することを副次的目的とする。

3. 研究の方法

- (1) これまでの科研費による研究成果を総括し、歯科医療倫理教育の現状と課題をさらに把握するとともに改善のための方策を検討するために、ワークショップやシンポジウムを開催する。
- (2) 映像による歯科医療倫理学修教材を制作するために「プロフェッションワークブック」から事例を選び、シナリオ化して映像化する。
- (3) 内外の文献調査及び実態に関する国内調査に基づいて抜去歯の適切な教育・研究利用法に関する提言の試案をまとめ、検討する。
- (4) 制作した映像による歯科医療倫理学修教材を用いた教育方略について検討するため教育研究集会を開催する。

4. 研究成果

- (1) プロフェッショナルリズム教育の実践に関するワークショップの開催(2019年度)
本科研費の研究協力者のひとりである木尾哲朗(九州歯科大学・歯学部)を中心に、他の研究協力者らとともに2019年8月9日から10日に愛知学院大学(楠元キャンパス)にて開催された「第73回 医学教育セミナーとワークショップ」に「プロフェッショナルリズム教育を実践しよう」というテーマでワークショップを開催し(8月10日実施)、本ワークショップの参加者とともに歯科医療におけるプロフェッショナルリズム教育について検討した。はじめに木尾が「これまでの活動の変遷からプロフェッショナルリズム教育を考える」と題してワークショップの開催理

由を改めて説明したあと、森 啓（松本歯科大学・歯学部）が「本学大学におけるプロフェッショナルリズム教育 - 現状・問題点・今後どうすべきか -」、大戸敬之（鹿児島大学病院）が「鹿児島大学でのプロフェッショナルリズム教育の実践例と対応に困った事例」、尾崎 哲則（日本大学・歯学部）が「病院見学実習での副産物」、安永 愛（九州歯科大学・歯学部）が「4 分割表の活用で学生の DVD 視聴着眼点はどのように変化するのか」、角 忠輝（長崎大学・歯学部）が「歯科医療倫理学修教材『入れ歯はひとつ』を用いた医療倫理教育の一例」、榎 則章（大阪歯科大学・歯学部）が「プロフェッショナルリズム再考」というテーマでそれぞれ発表し、最後に総合討論を行った。本ワークショップの概要は岐阜大学医学教育開発研究センター「新しい医学教育の流れ」第 19 巻 3 号（2020 年）pp.173-178、各発表の詳細は付属のデータ DVD をそれぞれ参照。

(2) これまでの科研費による研究成果物を用いた倫理・プロフェッショナルリズム教育の実践例等に関するシンポジウムの開催（2020 年度）

研究協力者らが、2020 年 9 月 25 日、26 日にオンラインで開催された第 39 回日本歯科医学教育学会学術大会のシンポジウム 3「倫理・プロフェッショナルリズムの方略新時代」（9 月 26 日実施）において、これまでの科研費による研究成果物を用いた教育実践例等の報告を行った。座長の木尾哲朗による本シンポジウムの趣旨説明の後、はじめに、角 忠輝が「『よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナルリズム教育：プロフェッションワークブック』の活用法」と題して、まず「2013 年度版」及び「2018 年度版」の歯学部における使用状況を報告した上で、これらの成果物をもとに 2019 年に作成した「プロフェッションワークブック」の活用法を例示した。次に、田代宗嗣（東京歯科大学・歯学部）が「歯科医療倫理学修教材『入れ歯はひとつ』の活用事例報告」において「入れ歯はひとつ」の過去 3 年に渡る教育実践例を報告し、動画教材のメリットとデメリットについて報告した。最後に、平田創一郎（東京歯科大学・歯学部）が「歯科医療倫理学修教材第 2 弾『落とし物はヒトの歯』の活用方法」と題して「落とし物はヒトの歯」の活用方法を紹介した。

本シンポジウムの概要は「日本歯科医学教育学会雑誌」第 36 巻 3 号（2020 年）pp.136-139（https://doi.org/10.24744/jdea.36.3_136）を参照。

(3) 抜去歯の教育・研究利用に対する患者等からの同意取得に関する暫定的な提案（2021 年度）

抜去歯の教育・研究利用に対する患者（又は代諾者。以下「患者等」という）からの同意取得の各国の状況について文献調査を行ったが、国内における実態調査はできなかった。しかし、内外の文献調査に基づいて暫定的に以下のような提案をまとめた。

○教育利用について

医療廃棄物として集められる前に、齲蝕のない歯や智歯などの特定の歯の提供を受け、完全に匿名化する場合：どこでどのように保管され、どのような教育にどのように利用されるのかについて概要を患者等に文書で説明し口頭で同意を得て、診療録にその旨記録する（個別同意）。

医療廃棄物として集められた後から教育利用する場合：どこでどのように保管され、どのような教育にどのように利用されるのかについて概要をホームページ及び院内で公開し、患者等に拒否する機会を設ける（オプト・アウト）。

○研究利用について

特定の研究に必要な歯について抜去後直ちに提供を受ける場合：患者等に文書により説明し文書により同意を受ける（個別同意）。

医療廃棄物として集められる前に、あらかじめ研究目的を特定しないで抜去歯の提供を受け、完全に匿名化する場合：どこでどのように保管され、どのような研究に利用されるか（DNA の抽出や細胞株の樹立は行わないことについては明記する）また研究利用されるときは、倫理審査委員会の承認と機関の長による許可を得ることを患者等に文書で説明し、口頭で同意を得て、その旨診療録に記載する（個別同意）。

医療廃棄物として集められた後から研究利用する場合：どこでどのように保管され、どのような研究に利用されるか（DNA の抽出や細胞株の樹立は行わないことについては明記する）研究利用される場合は倫理審査委員会の承認と機関の長による許可を得ることをホームページ及び院内で公開し、患者等に拒否する機会を設ける（オプト・アウト）。

この暫定的提案について検討する研究集会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の流行のため最終的に開催できなかった。

(4) 倫理・プロフェッショナルリズム教育の現状に関するシンポジウムの開催（2022 年度）

2022 年 7 月 23 日、24 日にオンラインで開催された第 41 回日本歯科医学教育学会学術大会にて、研究協力者とともにシンポジウム 2「倫理・プロフェッショナルリズム教育の現状」（7 月 23 日実施）を実施し、わが国の歯科衛生学を含む広い意味での歯学教育における倫理・プロフェッショナルリズム教育の現状および課題について総括を行った。はじめに平田創一郎が本シンポジウム企画の意図を説明し、次に榎 則章が「歯科医療人に求められる倫理・プロフェッショナルリズム」というテーマで歯科医療人に求められる倫理とプロフェッショナルリズムについて整理を行った後、二宮一智（日本歯科大学・新潟生命歯学部）が「日本歯科大学生命歯学部における倫理・プロフェッショナルリズム教育の現状」、長谷由紀子（静岡県立大学短期大学部・歯科衛

生学科)が「歯科衛生士教育における倫理・プロフェッショナリズム教育の現状と課題」、和田尚久(九州大学大学院・歯学研究院)が「歯科医師臨床研修における倫理・プロフェッショナル教育の現状と課題」についてそれぞれ発表した。

概要は「日本歯科医学教育学会雑誌」第38巻3号(2022年)pp.134-138 (https://doi.org/10.24744/jdea.38.3_134)を参照。

(5) 守秘義務に関する映像による歯科医療倫理学修教材の制作(2022年度)

新型コロナウイルス感染症の流行のために撮影を延期してきた、歯科衛生学を含む広い意味での歯科医学教育を学ぶ学生を対象とした倫理・プロフェッショナリズム教育のための映像による教材「そこで話していることは、なに?」を制作した。今回は「プロフェッションワークブック」の10-018「電車の中での会話」を参考に、前二作と同様に平田創一朗が作成したシナリオに基づいて映像化した。今回の教材は歯科医師の守秘義務に係わるものであり、医療における患者の個人情報の保護がテーマであるが、そもそもなぜ古くから医療従事者に守秘義務が課せられてきたのか、個人情報とは何か、個人情報に対する自己コントロール権とは何か、誰がいかなる根拠に基づいて患者等の個人情報を守秘しなければならないか、さらに患者の個人情報が漏えいしないようにするためにどのような教育や対策が求められるか、また実際に患者の個人情報が漏えいした場合、どのように対応するのが適切であるかといった問題について学生に自ら考えるきっかけを与えるものとなっている。

視聴は<https://www.youtube.com/watch?v=vnWGehYTYYA>にて可能である。

(6) 2022年度に制作した教材の活用に関する教育研究集会の開催(2023年度)

本科研費により2022年度に制作した上記の教材「そこで話していることは、なに?」を実際にどのように歯科医学教育で用いるかについて、2023年7月15日、16日にオンラインで開催された第42回日本歯科医学教育学会学術集会に合わせて「倫理・プロフェッショナリズム教育の実践：歯科医療倫理学修教材第3弾『そこで話していることは、なに?』を活用しよう」と題する教育研究集会を同学会の教育方略委員でもある本科研費の研究協力者を中心にオンラインで開催した(7月15日実施)。平田創一朗による開会・趣旨説明後、本教育研究集会の参加者21名(全員、大学をはじめとする教育機関の教員)が本教材を視聴し、その後、参加者を7名ずつの3グループに分けて、それらのグループに1名ずつファシリテーターとして研究協力者らがついて、授業計画案の作成を行い、プロダクトを共有し、相互に評価し合った。今回の教材はこれまで科研費により制作した2つの映像による教材とは異なり、上記の(5)で述べたように、倫理的ジレンマを提示して学修者に一定の解決策を考えさせるというものではなく、なぜ古くから医療従事者に守秘義務が課せられているのか、個人情報とは何か、医療従事者のみならず歯科医学の学修者もなぜ守秘義務を守るべきなのか、歯科医学に関する教育機関は教員や学生等に守秘義務の遵守についてどのような教育等を行っていくべきか等について効果的な学習方略を検討させるものであり、当日はこの課題について活発な議論が行われたが、時間的制約もあり最終的なプロダクトとして学修方略をまとめるにはいたらなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 角 忠輝, 田代宗嗣, 平田創一郎
2. 発表標題 倫理・プロフェッショナルリズムの方略新時代
3. 学会等名 日本歯科医学教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 樫 則章, 二宮一智, 長谷由紀子, 和田尚久
2. 発表標題 倫理・プロフェッショナルリズム教育の現状
3. 学会等名 日本歯科医学教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>1. ワークショップの開催 テーマ：プロフェッショナルリズム教育を实践しよう 発表者：木尾哲朗、森 啓、大戸敬之、尾崎 哲則、安永 愛、角 忠輝、樫 則章 開催地等：第73回 医学教育セミナーとワークショップ（愛知学院大学 楠元キャンパス） 開催年：2019年 概要：岐阜大学医学教育開発研究センター「新しい医学教育の流れ」第19巻3号（2020年）pp.173-178.及び附属のデータDVD</p> <p>2. 映像による歯科医療倫理学修教材の制作 タイトル：「そこで話していることは、なに？」 URL：https://www.youtube.com/watch?v=vnWGehYTYA</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大戸 敬之 (OTO Takayuki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	尾崎 哲則 (OZAKI Tetsunori)		
研究協力者	木尾 哲朗 (KONOO Tetsuro)		
研究協力者	角 忠輝 (SUMI Tadateru)		
研究協力者	田代 宗嗣 (TASHIRO Munetsugu)		
研究協力者	長谷 由紀子 (NAGATANI Yukiko)		
研究協力者	平田 創一郎 (HIRATA Soichiro)		
研究協力者	森 啓 (MORI Hiroshi)		
研究協力者	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	和田 尚久 (WADA Naohisa)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関